この先生にズームイン

ZOOM IN

将来の夢

ソロリサイタルのほか、教え子たちと神戸の世良美術館でサロンコンサートを開いている。「ピアノの演奏は年齢とともに深まっていきます。でも、最近は暗譜がしんどくて」と苦笑する。将来は自宅をサロンに改装し、若い演奏家たちに発表の場を提供したいという。

繊細な音色にうっとり

宝物はスイスで買ったリュージュ社製のオルゴール。象嵌（ぞうがん）が施されたふたを開けると、ピカピカの72弁のシリンダーが鎮座。「ピアノの鍵盤に近い6オクターブの音域を持つシリンダーで、複雑なテクスチュアと繊細な音色に思わず聴き入ってしまいます」

母の形見が着たくて

10年前に母親が亡くなり、形見の着物を着たいと一念発起。着付け教室に通い始めたところのめり込んでしまい、2年で師範の資格を取得。看板までもらった。着付けをきっかけに和文化に開眼。茶道も習い始め、歌舞伎や文楽にも頻繁に足を運ぶようになった。

今夜もほろ酔い

日本酒が大好き。毎晩、お気に入りの輪島塗の猪口で晩酌を嗜んでいる。イチオシの地酒は富山の「立山」と奈良の「春鹿」。どちらも女性に人気のさらりとした口当たりだ。ちなみに猪口は2つあるが、誰と一緒に飲んでいるかは内緒だとか。

デビュー当時からのファン

1970年代の登場時からハローキティが大好き。現在も文房具や小物類など、身の回りはキティちゃんグッズだらけ。最近は学生から旅行のお土産でご当地ストラップをもらうのがうれしいらしい。

木下千代（きのしたちよ） 教授

文化表現系教育コース
［芸術系教育分野（音楽）］

大阪府出身。東京芸術大学音楽学部から同大学大学院修士課程に進む。修了後、奈良文化女子短期大学音楽科助教授などを経て、平成5（1993）年兵庫教育大学助教授に。22（2010）年教授に就く。主にピアノ演奏法について研究している。授業は「鍵盤楽器表現の基礎・応用」「総合芸術表現演習」「ピアノ演習」「初等音楽」などを担当。

先生に質問！

Q&A

Q ピアニストである先生の授業は演奏技術に関する内容が中心なのでしょうか。

A 専門的なテクニックも大切ですが、楽曲解釈にウエートを置いています。例えば、ベートーヴェンが生きた時代背景や様式を知った上で楽曲を捉え直すというもので、洋楽全般に対する教養を高め、学校現場で生かしてほしいと思っています。

Q 今、教育研究で興味を持っていることは。

A 小学校音楽科の学習指導要領にある「音楽づくり」の授業開発ですね。どういう授業をすればいいか分からないという学校現場の声が多いのでモデルケースを研究しています。紙一枚で合奏したり、オノマトペだけで合奏したり、さまざまな楽器で即興的な表現を試みたりというものです。美術の先生と共に音楽、造型、身体表現を組み合わせ、五感を駆使した総合芸術表現の研究にも取り組んでいます。

Q 兵教大に勤務されて20年になりますが、学生たちの学ぶ姿勢に変化はありますか。

A 最近の学生は教職科目や実習時間が増えて忙しいせいか、自分の専門分野を深めようという意欲が薄れているように思います。もっとアンテナを広げて、自分がのめりこめることを探してほしいです。一見無駄に思えることでも追究していくと視野が開けます。「これだけは！」と胸を張れるものを持った教員を目指してほしいですね。